



# 双松会会報

第30号「双松会」通巻34号「松高北高同窓会報」通巻34号

発行 松江市奥谷町164

島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 21-4888

FAX: 21-4977

TEL: 21-3476

印刷 株式会社島根県農協印刷

青春グラフィティ Vol.7

第19期(昭和43年卒)

## 「還暦同窓会」を終えて



私たち新制十九期(北高四十三年卒)は、五八八名卒業致しております。そして、全体に呼びかけての同窓会は左記の通り開催致しています。

第一回(昭和五十六年)  
満三十歳時 五一名出席  
第二回(平成元年)  
満三十八歳時 九七名出席  
第三回(平成五年)  
満四十三歳時 一四四名出席  
第四回(平成十年)  
満四十八歳時 一六三名出席  
第五回(平成十五年)  
満五十三歳時 九〇名出席

本来なら五年目の平成二十一年に開催する順ではございましたが、大方の仲間の干支(丑)が二十一年に還るので、一年ずらして開催を致しました。二年後の春に集まり斯様に決めたわけですが、「還暦記念」なら二〇〇名以上の出席があるものと世話人一同開催に向かって熱い思いで取り組みましたが、

熱い思いで取り組みましたが、

言葉をいたしました。世話人代表・松原三郎君の挨拶の後、実は長老の北国宏巳君の乾杯で宴を始めました。

秋口より返送されてくる返事には「子どもの世話をから放たれたらと思つたら親の介護で手離せない」「盆には帰省しているがお正月には子どもたちが来るので」「体調が思わしくないので」等々思いのほか出席者の数は伸びず一〇八名での開催となりました。

それでも当日、出席の仲間は待ち遠しかったよう受付時刻よりも遙かに早く集い、多くの懐かしい顔を見ることできました。私たちの期は、大変残念なことに第一回目の時に第一回目からは私たちが在校していた三年の間にご在籍された先生八八名全てもお亡くなりになつてしましましたので、第二回目からは私たちが在校していた三年の間にご案内を差し上げて参りました。そして今回、五八名の先生にご案内を申し上げ、松本幹彦双松会会長・井田幸三郎先生もお出掛けの予定でした。が、年末急に都合が悪くなりご欠席となりましたが次回は必ず出席すると心強いお言葉をいたしました。

予約をしていた第二次会の会場も七割以上の出席がありここで笑い声やらひそひそ話お聞きと致しました。



吉隆

隆

兵もいたようですが、当日の記録は二次会までをCDに収め郵送する段取りです。

次回は元に戻しての開催となるかと思いますが、オリンピックより一年長い周期で開催されるのが怪しくなるとも思います。回を重ねるたびに酒量は確実に落ちており、酒に入る前に記念撮影することにしており、ご臨席いたいた先生方には申し訳ないのですが前列中央にお掛けいたまき囲むようにクラス別で撮影致しました。十一クラスあり撮影に漏れることのないよう声掛けをするのですが今回も二名記念写真に載つていません。三名出席のクラスあります、十五名出席のクラスあります、五名出席のクラスあります。三名出席のクラスではございましたが、撮影には二十分位を要してしまい生方にはご苦労をお願い致しました。二時間半の予定時間もあつという間に経つてしましましたが、最後は恒例の一番遠方から出席した仲間の中締めをやめ、十九期には同期生同士の夫婦が十三ペアいるのですが、ペアで出席した三夫婦の挨拶と校歌の大合唱をしてお聞きと致しました。





## 新任あいさつ

会長 庄司 肇

双松会の会員の皆様にはますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。去る七月二十七日、本会の役員会において松本幹彦会長がご退任の意向を表明されました。翻意を強くお願いしましたが、指導いたただくこととなります。

辞意が固く、誠に残念であります。が退任されることとなりました。今後は顧問として引き続き非才であります私が、その器にあらざることは承知しております。また重責に耐えうるかを危惧するところですが、会員各位のご協力を賜りつつ、しばらくの間重責を果たしたいと思います。

松本幹彦会長はこれまで高邁なご識見と強力なりーダーシップのもとに円滑に双松会を運営してこられました。特に、旧制中学で入学され、新制高校で卒業なさつており、新制高校卒業生はもとより、旧制中学卒業の皆様にも絶大に信頼されており、両卒業生の橋渡しをしていただきました。これまで、本会に尽力いただきましたことに衷心より感謝申し上げます。

私は昭和四十五年、母校の理科教員として赴任し、平成二年まで二十二年間(通信制で六年、

全日制で十五年)勤務しました。私の教員生活の半分以上を勤務させていただきました。その中で、昭和五十三年には川津校舎から現在の赤山校舎に、当時の生徒諸君たちといっしょに机や椅子を持って移転しました。そして創立百周年の記念行事では、市内を全校生と提灯行列を行い、市民の方々から熱烈な歓迎を受けたことを思い出します。私自身の生徒時代を含め、二十四年間の長年にわたってお世話になつた母校に微力ではあります。が、いささかでも恩返しができればと思っています。

今、双松会の課題の第一は、会員相互の交流の機会を拡大することです。全会員の集合を呼びかける総会は、諸条件を整えることに困難があり、現在の五年に一回という壁を突破することは容易でないと思います。ただ、卒業期別の同窓会はかなり盛んに行われ、地元松江においても卒業十二、二十、三十、四十周年といつた節々には盛大な全国集会が行われておりますし、東京地区、近畿地区など居住会員の多い地区では、毎年、期別集会が盛んに行われているようです。

一方、東京双松会、近畿双松会、広島双松会、米子双松会といった地区集会に会員が大挙

出席するということはないよう

で、世代を越えた大集会は難しいようです。

課題の二番めは、本会の財政問題です。これについては、松本幹彦前会長の命により財政専門委員会を設けて検討してまいりました。本年度も引き続き金平憲新幹事長を中心に検討していただきます。

在校生の諸君は伝統の「質実剛健」の精神のもと文武両道に



## 近況報告

校長 大賀敏郎

双松会の皆様には日頃から本校へ温かいご支援とご協力を賜り有難うございます。

北高的校長として二年目も半ばを迎え、一つまた一つとハーフドールを乗り越えているうちに、前方に定年というゴールが視野に入つてまいりました。思えば、教職の最後を北高で終えることになろうとは、駆け出し

難関大学、学部の合格者増が注目されるところです。本校の使命である、文武両道の人間教育を追求する中での高い進路目標の実現めざして、生徒諸君は日々切磋琢磨しております。

体育系部活動については、昨年に続き県総体男女総合優勝を果たしました。この勢いを持続して、前人未到の県総体五連覇を達成したいものです。

今夏の全国インターハイでは陸上、水泳、バドミントン、テニス、登山、ボート、柔道、体操の各部が出現しました。特に、柔道男子90kg級で門脇直生君が見事全国第3位に輝きました。一方、野球部は夏の県大会三回戦で、飯南高校と延長十三回まで

真摯な姿勢で取り組んでおり、大学進学状況は、質量ともに見事なものでありますし、部活動も県高校総合体育大会での男女総合優勝、文化部のレベルの高い活動等活躍をしております。

今後、母校並びに双松会のさらなる発展のため微力を尽くす所存でありますので、重ねて皆様のご支援、ご協力をお願いします。

在校生の諸君は伝統の「質実剛健」の精神のもと文武両道に

出席するということはないよう

で、世代を越えた大集会は難しい

ですが、大変大きな、爽やかな感動を残してくれました。

文化系では百人一首かるた、将棋・囲碁、箏曲、写真、新

聞、放送の各部が全国高総文祭に出場しました。また放送部はNHK放送コンテスト全国大会にも昨年に引き続き出場しました。また、合唱部は現在県大会へ向けて猛練習中ですが、昨秋の合唱コンクール全国大会で金賞を受賞(第四位)しており、今年も昨年以上の成績が期待されるところです。このように県内外で北高生は活躍しております。どうかご安心いただきとともに、皆様のご声援をよろしくお願い申し上げます。

ところで、高校再編成の一環として、約千八百名在籍の本校通信制課程は、来年度から定期合体の独立校として新設される県立宏道高校へ移管されることになりました。昭和三十八年以来五千五十名にのぼる卒業生の方々にとって、母校がなくなる(移る)寂しさはいかばかりかとお察し申し上げます。どうか、新しく、より充実した環境で学ぶことになる後輩達へも、引き続きご支援とご声援を賜りますようお願い申しあげます。

双松会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、近況報告とさせていた

だきます。(八月十八日・記)

## 恩師ふたたび



袖本重幸

## 県立松江一高のこと

昭和二十三年、松江中学が松江一高となつたが、翌年松江二高と統合して松江高校に変わつた故か、松江一高の卒業生は松中六十八期に括られ、双松の名簿に松江一高の明示は見当たらない。

僅か一年の松江一高であるが校舎全焼の大災難が起り、県から古志原の兵舎に移転せよと指示され、学校の存続に係る重大な事態となつた。

その時学校は「松江一高の教育は松江中学の伝統を受け継ぐもの、赤山を離れての教育はあり得ない」と県を説得。卒業生保護者が一丸となり募金を行い校舎を再建し、赤山に踏み止まつたのである。

この時の県への対応、募金活動、授業確保等変則的な業務の連続を遂行させた先生たちの活動は「赤山の伝統存続」

への熱い思いに依るもので、生徒も夏休み無しで県立女專と旧制松高で間借りし、二本松下や焼け残つた玄関での授業と、異常づくめの想像を超えた苦難の松江一高だった。

然し今思えば、此の難事に見事に対処した教育的識見と情熱こそが、次の松江高校を一時期、私立高校が松江一高を名乗つていたことがあり、既存の校名を許した県の判断も私は理解できなかつた。

このコーナーは松江中学、松江高校、松江北高校で教鞭を執られた先生に当時を偲んで執筆しているところです。

これは松中から北高迄連續勤務し、東高開校にも与つての、特に心に懸る想いである。今松江一高を御存知の先生は、兼折、内田両先生のみ? かと思うが。

**袖本重幸先生のプロフィール**  
昭和20年 松江中学65期卒業  
昭和22年~37年 教員として母校に勤務  
昭和54年~58年 同右

と旧制松高で間借りし、二本松下や焼け残つた玄関での授業と、異常づくめの想像を超えた苦難の松江一高だった。

然し今思えば、此の難事に見事に対処した教育的識見と情熱こそが、次の松江高校を

○会報編集助成金のお礼  
本会報の発刊に關わる諸経費への援助として以下の方々から浄財を賜りました。厚くお礼申上げます。

安達克己、安達宏紀、  
安達朋秀、飯塚守正、  
萊崎久、萊崎栄子、  
内山芳忠、小笠裕子、  
鷹嶋弘明、神崎喜久子、

菊池耕三、高田修志、  
田中瑞夫、長谷川宏、  
日次慶子(敬称略)

○拠出金・寄付金のお礼  
創立百三十周年記念総会の折にお願いしました各期ごとの拠出金として、6期、22期の方々より三万円ずつを頂戴しました。

○各支部の総会(予定)  
東京双松会  
平成21年9月27日(日)  
会場・松本楼

広島双松会  
平成21年11月14日(土)  
会場・広島ダイヤモンドホテル

近畿双松会  
平成21年11月29日(日)  
会場・中央電気俱楽部

東部双松会  
平成21年10月中

米子双松会  
平成22年2月中  
(詳細は後日)

○松江北高HP  
北高のホームページでは、母校の最新の動向をお知らせしています。「卒業生のみなさんへ」として双松会関係の情報も掲載していますので、ぜひアクセスしてみてください。

また、東京双松会、近畿双松会をはじめ各支部や卒業期、部活動O.B会などの皆さまがホームページを開設しておられます。一度検索をかけてみられてはいかがでしょうか。

## 事務局だより

## 北高ホームページのあわせ



## 特集

# ホーランエンヤ12年ぶりに開催 松江城山稲荷神社式年神幸祭に御奉仕して

16期 金 平

憲



6時起床、紋付、袴に着替え千早を着け北殿町会館へ集合する。いよいよ神幸祭です。城山稲荷から阿太加夜神社に神幸される御神輿は陸行列から船行列に引き継がれます。陸行列は、北殿、北堀、新橋の三つの初午講が神輿を担ぎ、威儀物、神器物を運び御奉仕します。紋服は陸の出立ちです。船行列は北殿町講中だけが、烏帽子に水色の直垂を着用し、三十五名ほどが

御神輿を待ちます。神輿を始め威儀物等を船に載せ、降ろすのは直垂しか原則できません。神輿を安置し神官が乗つた神輿船が大橋川中央に移動を始め、その周りを取り囲むようにならうと神輿船列をつくります。その船列の周りをホーランエンヤの華、櫂伝馬船が踊り始めます。この間十分、いつも時間との戦いです。北殿町の町外講員である私は紋服を礼服に着替え初午講船に乗船します。息子は神社の腕章を付け神社連絡船です。祭りは順調に進み、中の島辺りで昼食、トイレ休憩です。これから船団を編成し、意宇川河口まで一時間くらいで進みます。雨がぱらぱらと落ちてきました。中海大橋先で船団を解きます。意宇川にかかる山陰本線の鉄橋を神輿船はくぐ

ります。櫂橋で待機をして神

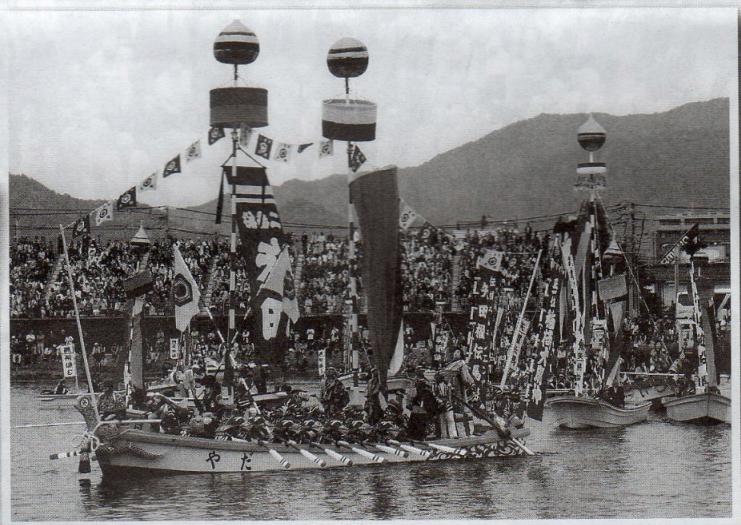
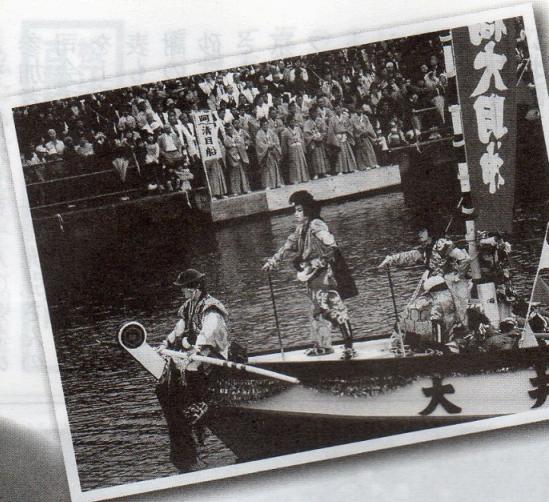
れません。両舷に護衛船があり、典儀も加わり千木と屋根を外します。着慣れない直垂で船の上の作業は困難を極めます。還御祭のこの作業は大雨の中で大変だったようです。橋をくぐり、船列をつくりなおし、神輿船は阿太加夜の一の向船に迎えられ意宇川の中央に進みます。ここで又、櫂伝馬の踊りが始まります。櫂伝馬を見るならこれが一番よいかも。最後に馬渕の櫂伝馬船が神輿船を曳いて出雲郷桟橋に着けます。直垂組は神輿等を下ろし阿太加夜の講中に引き継ぎます。飾り物を格納し、皆で阿太加夜の御祭典に参加します。この頃から雨になりました。バスで七時過ぎに北殿会館に帰り、長い一日の渡御祭が終わりました。

還御祭の日は朝七時にバスで出雲郷に向かいます。九時までに各船の飾り付けをします。枯れた桟を替え、飾りの点検、大変気を遣います。渡御祭と全く逆の順で神事が進みます。桟橋で待機をして神

輿を待ちます。陸行列も終わり安置された神輿船が川の中央に移動します。桟橋上は櫂伝馬がゆっくり見られるつかの間の特等席です。途中西の空が黒くなり、「松江は雨だよ」と家内からメールが入りました。息子達の連絡船が合羽と弁当を配ります。意宇川でビショビショになります。大町旗が雨を含んで倒れます。威儀物の色が落ち、直垂を染めます。途中早めのお昼を頂き、櫂伝馬船がくにびき大橋にかかる前に私達は大橋の桟橋に上がり紋服に着替えます。店で家内に袴を着けてもらいましたが、自分の結婚式以来の事で着付けの特訓もしました。雨は次第に小降りになりました。私は次第に小降りになり、やはり神事かなと感じつつ、桟橋で船行列を待つ、御上げし、無事御神輿を

稻荷神社までお連れし、祭典も終わり、今回の神幸祭が終わりました。大地に神社からの御神酒樽を配る役があり、五大地の方々は親類縁者も含め何か月もかけて準備をされました。それは大変なご苦労で資金もかけられましたと聞いております。初午講はたんびが新たの、座学でのぶつけ本番。我々を乗せていただきたい鯱船の船頭さんは我にも言いました。心よし、着物姿に直垂も私服になりました。お礼申し上げます。お互いに大変でした。会館で袴を外していただきたい鯱船の船頭さんはおいしゅうございました。本当に皆様お疲れ様でした。





陸奥国・弘前市から駆けつけた木村郁子さんが音頭をとつた。懇親会が始まつて間もなく、敢えてプログラムには載せなかつた野津幹雄君（島根大学名誉教授）の「ホーランエンヤの唄」の特別披露があつた。さすが五大地の一つ、福富組ホーランエンヤ保存会会

続いての懇親会。乾杯は新報で論説主幹として健筆を揮つた長野忠君が「ふる里を見つめて五十年」と題して、その時々の主な出来事をその背景を織り交ぜながら興味深く語つた。

松高四期同窓会（泉完次会長）はホーランエンヤ渡御祭の前日、五月十五日に、六十六名が相集い、サンラボーむらもで開催された。

当日の進行役は名司会者の誉れ高い岩崎圭子さん。会長挨拶に始まり、物故者への黙祷、東京・近畿地区の活動報告と続いた。この日のスピーチは、かつて地元紙山陰中央

**松高第四期  
同窓会を開催**

松高四期 佐々木郁雄



長で、前回は同地区総代長を務めただけあって、出船の唄、踊りの唄、接岸の唄等ユーモア溢れる語りに手振り身振りを交え、唄の解説と自慢の喉を聞かせてくれた。滅多に聞けないタイミングで出し物に会場は拍手喝采、懇親会は一段と盛り上がつた。きっと翌日からのホーランエンヤへ一層興味をそそつたに違いない。そして最後は校歌「大空はあるか」を大合唱した。皆の歌声は元気そのもの、その顔、頬は松高時代を彷彿させるものがあった。来年は喜寿、お互いに再会を約して名残を惜しみつつ散会した。

## 特集2 同窓会の開催

## 第十期卒業 五十周年記念同窓会開催

森脇よし子

伝統や文化に対する人々の願いと努力、そして宍道湖を有する松江の、伝統の祭りは類の無いほど美しい。十二年に一度のホーランエンヤ渡御祭当日の十期生卒業五十周年記念同窓会は、友や、ふるさとを、懐かしむ一八〇余名の参加者を得て井山充弘さんの司会で幕を開けました。予想を上回る参加者に物部眞二代表も感慨ひとしお、喜びと感謝の挨拶。石川啄木『一握の砂』から『初恋』を出口典雄さんの朗読で、つづいて遠藤京子さん歌唱・松本喬逸さんフルートによるミニコンサート。『この道』そして『アメジンググレイス』の美しい音色が流れる、会場には感無量の雰囲気が漂いました。つづいて、出口典雄さんの楽しいお話で、在校時にタイムスリップ、あちこちで皆様のくすくす笑いもありました。

歓談、そして、壇上では記念ゴルフの結果発表、各部やクラスの紹介・撮影・歌など、昭和二十八年制定の『校歌』土岐善磨の詩は、自由の道を進むべしと希望と夢の青春を謳い氣概と誇りにあふれてい

ます。一方で阿久 悠の『青春時代』は、青春時代が夢なんてあとからほのぼの思うもの青春。今、いろいろな道を辿り年輪を重ねた皆様を、とても素敵だと思いました。昔のやんちゃや、お茶目な面影をどこか残しつつ、貴禄のアラ古希同窓会でした。最後に肩を組み全員、円陣で校歌齊唱。名残を惜しむ顔、顔、顔の真ん中には十期同窓会の事務局と

あります。一方で阿久 悠の『青春時代』は、青春時代が夢なんてあとからほのぼのと思うもの青春時代の真ん中は道に迷っているばかり、の青春。

青春時代が夢なんてあとからほのぼのと思うもの青春時代の真ん中は道に迷っているばかり、の青春。

輪を重ねた皆様を、とても素敵だと思いました。昔のやんちゃや、お茶目な面影をどこか残しつつ、貴禄のアラ古希同窓会でした。最後に肩を組み全員、円陣で校歌齊唱。名残を惜しむ顔、顔、顔の真ん中には十期同窓会の事務局と



## 松江北高第二十八期 同窓会開催

各期だより

私たち北高二十八期（昭和五十二年卒）は去る七月十八日（土）に十七年振りの同窓会を開催しました。恩師の皆様は、池橋達雄先生、細木保興先生、石原亨先生、安部昭彦先生、田中達男先生にご来駕頂き、同窓生百五十七名共々、昭和五十年前後に帰つて賑やかに歓談しました。

同窓会は先生からお話を頂いた後、今回最も遠方より参加してくれた土江亨君（紐育在住）の乾杯の発声で始まりました。宴会は川津校舎時代に学園祭用に竹中誠君が製作した映画を見ながら盛り上がり、ルーム毎の集まりはやがて解け、学年全体の同窓会らしくあちこちに輪が広がっていきました。高校時代には話したことなかつた人達がこ

して長年尽力された西尾辰郎さんの飛び切りの笑顔。彼の音頭で、次のホーランエンヤもきっと会える！と万感ござる思いの万歳三唱でお開きとなりました。See you.



今回、校歌・歌唱の訳詩・スピーチ等の字幕をスクリーンに、（ソフト IPtalk 使用）試す試みも致しました。

の場で邂逅し、新たなご縁を得られたと聞き、心強く嬉しく思いました。

三時間半はあつと言ふ間に過ぎ、名残惜しくはありましたが、理数科幹事の山根秀明君の「だんだん」という中締めでお開きとなりました。今回恩師の方々には記念品とし

て、同期の陶芸家福島絵美さん作の紅白茶碗をお贈りいたしました。

その後、各ルームの二次、三次会は夜遅く迄と云うか、朝早く迄行われたと聞いておられます。

今回世話になつた幹事の皆様、お疲れ様でした。そして側面から支えてくださった松江北高にも改めてお礼を申し上げます。

多くの皆様に参加頂いた中、どうしても連絡のつかない方が二十二名いらっしゃいました。が、連絡のついた方々のうち四人中三人の方からご返答を頂き、これは幹事として有難いことでした。

皆様、近い内に同窓生全員でお会いしましょう。

**松江高校11期(昭和33年卒)  
古稀記念同窓会のご案内**

私たち松江高校十一期生は来年、古稀を迎えます。人生七十年、古来稀なりといわれた慶祝の年ですが、若者もかくやとばかりにそれぞれの分野で活躍をしています。情報交換に併せて、お互いの健康を祝し、杯をあげたいと思います。

後日、案内状を送付いたしましたが、前回にもまして多数ご出席いただきますよう、今から予定に入れていただけれ

ば幸です。

再会を楽しみにしています。

平成22年10月16日(土)

**会場** ホテル一畑

松江高校11期代表 小林 哲朗  
事務局長 金津政次郎

**北高20期(昭和44年卒)  
感激の還暦同窓会のご案内**

早いもので卒業以来四十年が経ちました。そして大きな声では言えませんが、昭和二十五年寅年生まれの同期生諸君は来年めでたく還暦を迎える。

そこで記念の同窓会を左記により盛大で華やかに開催する運びとなりました。

時期は忙しい正月や盆を避けて平月にしましたので、今から予定を立てておいていただき、万難を排してご参加くださいますよう、幹事一同おださいます。

待ちしています。

なお、船頭多くして盛大で華やかな企画の内容がなかなか決まりませんが、案内状は近々お送りする予定です。

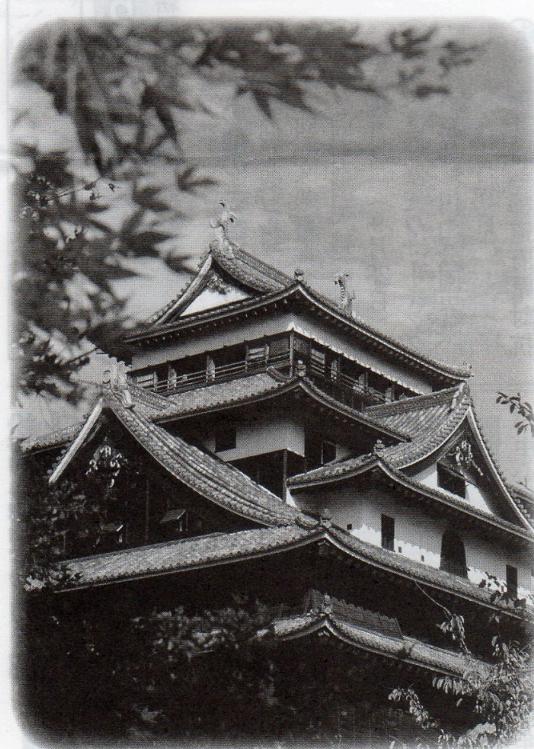
日時 平成22年6月12日(土)  
夕方から  
会場 ホテル一畑  
会費 未定  
幹事代表 杉原  
0852 (31) 1677

**松籟(しょうらい)**

数年前に岡倉天心や横山大観ゆかりの茨城県五浦を訪ねました。海岸沿いの宿は通された部屋の眼下に岩礁が見え、到着した時は引き潮で打ち寄せる波音は、これで安眠できるだろうかと心配になるほどでした。ところが翌朝は日の出の少し後が満潮で岩礁はかなりが水面下となり前夜とは全く異なる潮騒だったのです。後で知ったのですが、君は来年めでたく還暦を迎えた音風景「○○選」となつていました。

五感で感じる様々な事が人間の心持や志に多大な影響を与えている事はまちがいありません。伯耆富士を遠望し、千鳥城の足元で双松を仰ぎ見、松籟を聴きつつ勉学に励むとは何と恵まれた環境でしょう。

亡義父から受け継いだ四鉢の松の盆栽。特大の一つはもてあまして人にさしあげてしまい、二つは昨夏の旅行中に猛暑の為オシャカとなり、最後の一鉢と前から手元にあつた一鉢を可愛がっています(つもりです)。西川津校舎で三年間過ごした為、子ども達が赤山に通うようになつてようになりました。



実は現在赤山の二本松は度重なる土地の造成により周りを固められて、底のぬけた盆栽状態で次の大規模な手入れを定されています。

先日、常任幹事会の折に松前会長が「昔はこのようない話は正座して聞いたもの……とご教示くださいたのは、何故双松を守るのかという原点のお話でした。明治の世となると、松江藩の元家老が赤山を譲るときの条件が双松を大切に守ることだったのだそうですね。また正門前の「大正天皇お手植えの松」について、天皇(当時は皇太子)がおかげになつたのはほんの二、三掬(くわ)の土で、残りは東郷平八郎さんがかけられたということでした。覚えておきましょう!

H.P.本体は満足いくものではなくつてしましましたが、自分なりの目的の為に努力してきた事実は失われる事はありません。

H.P.本体は満足いくものではなくつてしましましたが、自分なりの目的の為に努力してきた事実は失われる事はありません。

翻つて私が松だつたら、「あまり気にしなくていいよ。肩の力を抜いて。」と関係の方々に囁きかけると思います(たぶん……)。

## 東京双松会 支部だより

東京双松会 事務局長 前島 紀夫 (昭38年卒・14期・北高2期)

# 双松会支部だより

## 近畿双松会 支部だより

近畿双松会 事務局長 松本 耕司 (高校16期II・北高卒業4期)

# 松高・北高サッカー部 OBの皆様へお願い

松高五期 池田 英文

サッカー部の歴史の貴重な資料  
写真・記録・原稿を募集しています。

昨年の6月に東京松江会に出

第五回総会をこの九月二十七日(日)、日比谷松本楼で開催します。好評イベント「部活動の思い出」は、歴史と伝統を誇り現在各界で活躍される人材も多い「陸上部」に登場いただきます。旧制松江中

学以来郷土陸上界を牽引し松江高校時代には中国五県大会で優勝を重ねる等、当に文武両道を実践されてきました。

兼折先生(顧問、元松江高校長)の命名による同部OB会

「三柳会」の精神は今も北高に引き継がれており、そのあたりを山田寧先輩(昭35年卒、第9期、かつて本邦ジャンプ界を牽引)を中心に、演出していただきます。尚兄弟校「松江東高校」も参画されている

51年目を迎えた本年は百周年をめざす第一歩の年として、左記の骨子を基本に取り組んでいます。

①五年ごとに周年記念事業を行ふことをあらかじめ目標として設定し、中間年は巡航速度で運営し、活動にメリハリをつける。

②「会員の拡大」は最優先事項として取り組む。

(1) 第29回懇親ゴルフ会(済み)  
(2) 第4回「文楽鑑賞会(済み)  
(3) 第2回 天満天神「繁昌亭」落語鑑賞会 (9月23日)

(4) 第4回 歴史ウォーキング  
・場所: 京都 四山公園界隈  
(10月18日)

今春には、漸く「記念会報」も発刊し、「50周年事業」はすべて終了しました。同窓各位のご協力に対し心から御礼を申し上げます。

(5) 第3回「都道府県対抗女子駅伝大会」応援  
(1月17日)

以上、同窓間の親睦・交流のため、又、母校と郷土の発展を願つて活動を続けています。

三校の卒業生全員が対象ですので、奮つてのご参加をお待ちしています。

これまで、故郷を繋いだ記事等が掲載されていますので、是非一度覗いていただければ幸いであります。首都圏には推定三千名以上のおBが在住されており、現在会員の増強、掘り起こしに注力中で、今期最大の課題と捉えています。各期幹事、北高双松会事務局、近畿双松会のご支援アドバイスもいただき感謝しております。我々は故郷松江と首都圏を結ぶ絆が今後、より一層強まることを念じております。

## 一本年度の活動方針

51年目を迎えた本年は百周年

をめざす第一歩の年として、左記の骨子を基本に取り組んでいます。

①五年ごとに周年記念事業を行ふことをあらかじめ目標として設定し、中間年は巡航速度で運営し、活動にメリハリをつける。

②「会員の拡大」は最優先事項として取り組む。

## お申し込み(お問い合わせ)先

事務局長 松本耕司宛  
携帯 090-16609-18817  
メール k-natsunoto@hi-hone.jp  
おまほす。

■連絡先

橋本啓司 (北高3期)  
TEL 03-3311-7175-19  
E-mail : kyu-ri@mbe.ocn.ne.jp  
池田英文 (松高5期)  
TEL 03-3311-7175-19  
E-mail : eikestudio@rhythmocnne.jp



会則の大改訂、都心への事務局移転、若手の幹事登用等歴史ある本会の思い切った若返りと活性化を志向し、取り組んでいます。昨年十一月ホームページ (<http://www.tokyososhokai.org/>) を立ち上げ、北高HP、近畿双松会HPと連動しています。やや自画自賛ながら結構工夫さ

事務局長	監事	幹事長	副幹事長	副会長	同	【役員】
				庄司	庄司	
				山本	肇(新)	
				田中	隆志(再)	
				竹次郎(再)		
				金津	任紀(再)	
				菅野	恵子(再)	
				大賀	敏郎(校長)	
				景山	憲(新)	
				金平	直觀(新)	
				山口	尚史(再)	
				庄司	築一(再)	
				古瀬	誠(再)	
				嘉之(教頭)		

七月二十五日にサンラボー  
むらくもにおいて今年度の役  
員会総会が開催された。  
松本幹彦会長の挨拶、大賀  
敏郎校長から学校近況報告の  
後、会長を議長に議事に移り、  
次の議題について協議・報告  
がなされた。

今年度は役員改選期にあ  
たつており、庄司肇新会長を  
はじめ、新役員が承認された。

【議題】  
一、平成二十年度会務報告、  
会計決算報告、監査報告  
二、役員改選(後掲)  
三、平成二十一年度会務計画、  
予算案審議  
四、二本松の現状と対策につ  
いて(下掲記事)

## 平成21年度 双松会会計予算書

## 平成20年度 双松会会計決算書

収入総額	5,497,035円
支出総額	4,099,446円
差引残高	1,397,589円

## 【収入】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減	備考
入会金	2,484,400	2,460,400	24,000	全日制 延べ 11,172人×200円 (931名×12ヶ月) 通信制 100人×2,500円
繰越金	1,397,589	967,542	430,047	平成20年度から の繰越金
繰入金	1,500,000	1,500,000	0	会報編集助成金 会計より
寄付金	0	300,000	△300,000	
雑収入	8,011	2,058	5,953	預金利息等
合計	5,390,000	5,230,000	160,000	

## 【収入】

費目	予算額	決算額	増減(△)	備考
入会金	2,460,400	2,624,600	164,200	全日制 延べ 10,948人×200円 通信制 174人×2,500円
繰越金	967,542	967,542	0	平成19年度から の繰越金
繰入金	1,500,000	1,500,000	0	会報編集助成金 会計より
寄付金	300,000	343,026	43,026	18期、9期、6期、60期
雑収入	2,058	61,867	59,809	提出金2件、預金利息
合計	5,230,000	5,497,035	267,035	

## 【支出】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減	備考
会議費	200,000	200,000	0	常任幹事会、役員 会、各地総会補助
会報発行費	3,550,000	3,550,000	0	会報印刷・発送代
通信事務費	50,000	50,000	0	役員会案内等
記念品費	550,000	550,000	0	卒業記念品・卒 業証書用丸筒代
旅費	400,000	400,000	0	各地総会への本 部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	50,000	0	慶弔費等
予備費	540,000	380,000	160,000	
合計	5,390,000	5,230,000	1,600,000	

## 【支出】

費目	予算額	決算額	残額(△)	備考
会議費	200,000	154,180	45,820	常任幹事会、役員 会、各地総会補助
会報発行費	3,550,000	3,163,612	386,388	会報印刷・発送代 (24,382通)、芳名録
通信事務費	50,000	26,170	23,830	役員会案内等
記念品費	550,000	419,699	130,301	卒業記念品・卒 業証書用丸筒代
旅費	400,000	245,340	154,660	各地総会への本 部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	4,315	45,685	弔電代
予備費	380,000	36,130	343,870	資料購入費
合計	5,230,000	4,099,446	1,130,554	

## 平成二十一年度役員会総会報告

二本松の現状と対策について  
常任幹事 井原 泰(高校3期)

一世の二本松は明治三十年、旧松江藩家老の塩野門之助氏から寄贈を受けたもので、旧松江中学校、松江高校、松江北高校のシンボルとして長い間親しまれて来ましたが、昭和六十二年と平成十三年に松喰い虫のため、枯死し惜しまれつつ伐採されました。樹下に芽生えた幼松の中から二本の松を選抜して残し、育て大きくしたものが現在の二世の松です。この松を健やかに育てるために歴代の校長先生、教職員の皆様に注意してもらい、消毒、施肥、剪定し専門家に依頼して適切な処置を施してもらつきました。しかし、数年前から東側の松の枝の一部が枯れ始めました。幸い、北側の松は健全で松喰い虫の存在を確かめるため専門機関に調査を依頼しましたところ、何本かの検体の一本から松喰い虫が発見されました。その一本から松喰い虫が発見されました。その後、さらに、薬剤を投与して消毒に努めましたが、枯死の状態が進み切斷せざるをえなりました。幸い、北側の松は健全で松喰い虫に侵されていません。今後の対策ですが、なかなか育たないのは一世の松の残つた根、それ付着していたキノコに原因があるようです。現在、根回ししている元気な北側の松を残し、土台の中の土や古い根、キノコ類を全部除去し新しい土に入れ替え、校舎の南側にある二世の松(一世の松の実生松で大きく成長しており、すでに根回しが施してあります)を持って来て二本並べて植えたと思っています。生徒の通用門から見て綺麗に見えるように植えてもらいます。これにかかる費用は「北高の緑を守る基金」から出させてもらいます。今後、新しい植え替えた二本の松が元気に育ち松江北高校の新しいシンボルとして成長することを願つてやみません。

# 平成二十一年度 通信制同窓会役員会報告

七月四日(土)に、松江市サンラボーで、島根県立宍道高校の役員会を開催しました。来年度に開校する島根県立宍道高校の概要についても説明がありました。

## 【通信制課程の今後について】

平成二十二年三月が現校舎での「北通」最後の卒業式になります。そして、同四月にはいよいよ県立宍道高校が開校の運びとなり、新校舎へ移転します。ただし、「北通」生は二十四年度までは「北通」在籍の生徒となります。二十五年三月には閉課程式典、並びに「北通」生最後の卒業式が行われる予定です。同窓会事務局も来年度に宍道高校へ移転し、二十四年度まで活動を継続します。な

お、閉課程となる二十

五年度以降の活動につ

いては現在のところ未

定です。

## 平成21年度 予算

### 【収入の部】

款	項	20年度予算	21年度予算	増減(△)	備考
繰越金		840,358	1,023,957	183,599	
会費		570,000	540,000	△ 30,000	3,000円×180
雑収入		642	43	△ 599	利息
合計		1,411,000	1,564,000	153,000	

### 【支出の部】

款	項	20年度予算	21年度予算	増減(△)	備考
会議費		104,000	104,000	0	
役員会		100,000	100,000	0	会場使用料
監査会		4,000	4,000	0	旅費他
事業費		376,000	480,000	104,000	
在校生活動助成		276,000	380,000	104,000	全国大会等生徒助成 210,000円 全国大会等引率助成 170,000円
地区同窓会助成		100,000	100,000	0	
事務費		10,000	10,000	0	通信費他
予備費		921,000	970,000	49,000	
合計		1,411,000	1,564,000	153,000	

## 平成20年度 決算報告

収入総額	1,457,287円
支出総額	433,330円
残額	1,023,957円

(次年度会計へ繰越)

\* S45卒業 森山峯也様より

### 【収入の部】

款	項	20年度予算	20年度決算	増減(△)	備考
繰越金		840,358	840,358	0	
会費		570,000	516,000	△ 54,000	3,000円×172
雑収入		642	100,929	100,287	寄付金*、預金利息
合計		1,411,000	1,457,287	46,287	

### 【支出の部】

款	項	20年度予算	20年度決算	増減(△)	備考
会議費		104,000	55,030	△ 48,970	
役員会		100,000	51,030	△ 48,970	会場使用料、記念写真代他
監査会		4,000	4,000	0	旅費他
事業費		376,000	195,000	△ 181,000	
全国大会助成		276,000	195,000	△ 81,000	全国定通体育大会(5,000円×38) 全国高総文祭(5,000円×1)
地区同窓会助成		100,000	0	△ 100,000	
事務費		10,000	10,520	520	通信費他
予備費		921,000	172,780	△ 748,220	全国大会引率旅費補助 172,780円(2名:県費非令達分)
合計		1,411,000	433,330	△ 977,670	

# 北高生の活躍

## 島根県高等学校総合体育大会

男女総合優勝  
輝く2連覇!

今年も県内各地を会場に県總体が行われ、北高生が大活躍を見せてくれました。

### ○総合成績

#### 男女総合Aグループ

男子1位 2年連続22回目

男子2位

女子1位 2年連続12回目

## 全国高等学校総合体育大会

奈良県を中心に「近畿まほろば総体」が開催され、本校から県の代表として8競技種目に参加しました。

### ○出場競技種目

バドミントン部

登山部

陸上競技部

体操部

テニス部

柔道部

ボート部

水泳部

柔道で全国堂々3位

三年生の門脇直生君が柔道男子90kg級で強豪を次々と攻め破りました。見事全国第3位に入賞しました。

門脇直生君のコメント  
「ぶちかましてこい」という高橋先生の一言で初戦からリラックスして臨めました。一試合ずつ集中して戦うことで全国バスケット4までいけました。試合が終わってからは感謝の気持ちで胸がいっぱいになり、涙がとまりませんでした。

## 全校高等学校総合文化祭

三重県を中心開催され、本校からも6部門に参加しました。

### ○参加部門

日本音楽部門(筝曲部)

新聞部門

放送部門

小倉百人一首かるた部門

将棋囲碁部門

写真部門

放送部全国大会へ出場  
放送部は昨年に続き、県大会で総合優勝を果たしました。7月には東京で行われたNHK杯全国放送コンテストに出場し、参加した四部門で準々決勝に進出しました。

## 合唱部全国大会へW出場

### NHK全国学校音楽コンクール

広島市で行われた中国大会へ出場が決まりました。10月に行われるNHKホールでの大会の模様は全国放送されます。

### 全日本合唱コンクール

金沢市で開催される全国大会で中国大会を突破し、県大会、中国大会を突破し、全国大会に入賞しました。

登山部 部長  
岸 貴之

新型インフルエンザ、豪雨災害で不安視されていた兵庫の氷ノ山一帯で、僕たちのインハイは始まつた。三日間の登山行動のうち二日間は雨によつて山道は沼地のように変わり、体力、精神共に激しく疲労し、限界つてこれかあ…と思ひながら歩いた。

最終日には雲が晴れ、同時に僕たちも元気を取り戻した。かの有名な植村直己の愛した蘇武岳を高校最後の登山とできることがうれしかつた。

登山は四人一隊でのぞむ。仲間たちと協力し合い、励まし合いながら五日間の大会を無事終えることができたことを誇りに思う。

また、全国大会での他県の岳人との交流で大きく刺激され、僕たちも頑張ろうという意気を持って大会を過ごせた。

入学して約二年半の間登山部として活動してきた。山は楽しい面や美しい面もあれど、恐ろしい面、厳しい面も

災害で不安視されていた兵庫の氷ノ山一帯で、僕たちのインハイは始まつた。三日間の登山行動のうち二日間は雨によつて山道は沼地のように変わり、体力、精神共に激しく疲労し、限界つてこれかあ…と思ひながら歩いた。

日間は雨によつて山道は沼地のように変わり、体力、精神共に激しく疲労し、限界つてこれかあ…と思ひながら歩いた。

あつた。そこから得た全ての経験を全国大会にぶつけようとしたが、残念ながら結果は目標に至らなかつた。しかし、この夏に最高の仲間と汗や涙を流して登つた兵庫の山々を僕は忘れない。島根の恵まれた自然を堪能できよかつた。関係した全ての人たちに感謝している。

島根の恵まれた自然を堪能できよかつた。関係した全ての人たちに感謝している。

全国高等学校総合文化祭日本音楽部門は、全国から集まつた各都道府県の代表校十五校が日々の練習の成果を

等曲部 部長

川本美也子



## ☆全国大会に出場して☆

登山部 部長

岸 貴之

披露する。

大会は二日に渡り行われ、各高校が次々と演奏していくが、課題曲はなくそれぞれの学校が自ら選曲したものを作曲する。演奏の評価の対象は、芸術性・調和性・表現力・難易度・基礎力である。

私たち北高音楽部は、その名通り琴のみで演奏する。

しかし、日本音楽は三味線、尺八、歌を交えたものであるので、必ずしも琴だけの演奏会ということではない。島根県には、それらを交えた演奏をする学校がないため、このようない演奏を聴けることは全国大会ならではである。

私たちは、この大会のため日々練習に励んできた。全国

大会の演奏のレベルを思うと、ますます練習に熱が入り、曲の細かい部分の表現も追求していった。

全国大会では優秀校八校の中に入ることができず悲しくもあつたが、私たちのできる最高の演奏ができたことが嬉しく、同時に三年連続全国大会に出場できたことを改めて誇りに思う。そして今まで私たちを支えてくださった先生方に感謝の気持ちを伝えた

出場します。昨年に続いての連続出場です。

【部長原啓太君のコメント】

合唱部員51名は、夏のコンクールを大きな目標として努力してきました。中国大会では自分たちが今できる最高の演奏ができました。ともに金賞をいたしました。本当にうれしかつたです。

全国大会では、人の心を動かす歌を歌うために、さらなる高みをめざして努力します。

【尾原萌華さんのコメント】

一年生の尾原萌華さんが全国高校選手権大会において全国第7位に入賞しました。

【第二回紅陵祭】

## 第二回紅陵祭

を開催

昨年度から名称を「紅陵祭」とし、新たな歴史を刻み始めた北高学園祭。今年は「絆」をメインテーマに、

九月三日～五日の三日間に行いました。

幕開けは地元・松江市を拠点に活躍しているシンガーソングライター、六子さんの歌を交えた講演で盛り上がりました。一年生各ルームによる北高

全国高校定期 体操大会

○出場競技種目

・男子バレー・ボール

1回戦

1対2 秋田明徳高校

・女子バレー・ボール

1回戦 1対2 延岡青朋高校

柔道 男子中量級 松井明法  
4回戦進出・ベスト8  
石塚海 100M予選7位  
陸上競技 200M予選6位

・バドミントン  
米田明伸  
男子シングルス1回戦  
0対2 龜井厚志(栃木)

展示や発表、二年生のルーム展示、体育祭では三年生による恒例のページェントなど内容も豊かで、大成功のうちに終わりました。

# 本年度の進路状況

【当たり前のこと】を当たり前にする

皆様の後輩である北高生たちは、毎日の学びに、部活動に、学校行事に、何事にも全力で臨んでおり、「文武両道」「質実剛健」の精神を受け継いで精進しています。

大賀校長のもと、昨年度から改めて「授業第一」の姿勢「挨拶と掃除の励行」を特に重点的に指導しており、「当たり前のことを当たり前にする」自立した生活を送れるよう働きかけています。

## 【遠くを見すえ】

ますます複雑化する社会にあっては、将来を見据えて課題や目標を明らかにし、その解決や実現を目指して実行できる力が求められます。高校生にとっては、もちろん目標とする大学入試を突破できる力をつけることも大切ですが、生徒たちには、もっと広く遠く深くを見すえて「未来を生きる力」をはぐくんではいと願っています。

東京大学九名、京都大学四名、大阪大学十三名をはじめ、旧七帝大を合わせた合格者数は四十名でした。国公立大学の合格者数は延べ二一七名で、入試日程が前期のみの大学が増え、また多くの大学が前期に入学定員をソフトさせる傾向が強まつたこともあり、合格者数はやや減少しました。

私立大学は、地方受験やセンター試験利用等の受験方式の複線化が定着したこともあり、延べ三五五名が合格しました。既卒者を中心に、早慶十八名、関関同立六十四名をはじめとする難関大学に合格しています。

## 【主な取り組み】

未来創造ステップアップセミナー  
北高と東高、南高の市内三

志向は強まっています。

本校における今春の進路状況は別表のとおりです。今春の卒業生は、県高校総体で総合優勝を果たし、インターハイにも多くの選手が出場しました。また、文化系でも合唱部の全国金賞のほか、夏の全国高総文祭に七部門が参加するなど、部活動で学校や地域を大いに活気づかせてくれた学年でした。その勢いで、受験に臨み、立派に文武両道を果たしました。

**中高連携ステップアップ事業**  
県教育委員会の学力向上プロジェクト事業の一環として、本校と松江市立第一中学校とが指定を受け、取り組みを進めています。特に英語と数学の教科でお互いの連携を深め、授業参観や橋渡し教材の作成を実施します。第一回として来年の二月に三日間、理数科二年生が、茨城県つくば研究学園都市と東京で研修を行うこととしています。

**進路講演会**  
総合学習の一環として、三年前から、双松会の先輩をはじめ社会でご活躍の方々を特別講師にお招きして、一年生を対象に進路講演会を実施しています。先輩方からの熱いメッセージは、生徒たちも視野を広げ、進路意識や職業観を形成することに大いに役立っています。

また、二年生を対象として大学から各方面の研究者を招いて講演会を行っており、学問の奥深さや面白みを精鋭の研究者から直接聞くことができるよい機会となっています。

提供等を通じて、生徒の意欲や学力増進につなげることを目的にしています。

## 理数科研修旅行

理数科では、昨年度から独自の事業として「課題研究」と「校外学習」を導入しています。「課題研究」は生徒自らが課題を設定し、調査、研究、発表する授業です。「校外学習」では、県立中山間地域研究センターを訪れ、地域の課題と対策について研修を実施します。

加えて、今年度からは、県外の最先端施設等での宿泊研修を実施します。第一回として来年の二月に三日間、理数科二年生が、茨城県つくば研究学園都市と東京で研修を行います。

**編集後記**

今年五月には、日本三大船神事の一つである「ホーランエンヤ」が十二年ぶりに開催され、その壮大華麗な船行列に大橋川沿いはたいへんな人手で賑わいました。この機に併せて同窓会を開催された卒業期の方々も多く、このたび特集記事としてご寄稿をお願いしました。

松江市では、昨年来、松江開府四百年の記念イベントが次々と開催されており、また昨年放映されたNHKの連続ドラマ「だんだん」の効果もあって、へるん旧居あたりでも観光客の姿が目に見えて増えています。

歴史と文化を誇る松江の町でも、特にその薫り豊かなここ赤山の地で青春時代を送ることができた喜びは、卒業して何年も経つてからしみじみと実感できる思いなのかもしれません。

今年の会報をお届けします。皆様に母校の様子をお知らせし、故郷を懐かしんでいただくとともに、会員相互の親睦交流につながればと願っています。皆様からのご意見やご提案、ご寄稿をお待ちしております。